

講義名	マクロ経済学			
担当教員	竹内 信行			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

マクロ経済学は、多種多様な経済活動を例えば「日本経済」というような国単位の大枠で捉え、「景気のよし悪しはどう決まる?」、「自給政策の有効性は?」といった問題について考える学問です。そのため、マクロ経済学を学ぶことは新聞等で取り上げられる経済事情や経済政策を正しく理解する手助けになります。本講義では、そうしたマクロ経済学の第一歩としてマクロ経済学の基本的な考え方の習得を目指します。また、実際のデータやニュースの読解を適宜、取り上げ、日々の経済ニュースや日本経済の現状、その歴史について理解が深まるよう工夫していきます。取り扱う内容には複雑で難解な面もありますが、丁寧な解説を心がけ、楽しく学んでいけることを目標とします。くわえて公務員試験受験を考えている学生に対し、経済系科目学習のスタートアップを提供することも目標の1つとします。

到達目標

マクロ経済学の基本的な知識の習得し、以下の諸点ができるようになることを目指します

(1) マクロ経済学的なものの方を見方を身につける
(2) GDP や物価指数といったマクロ経済指標が何であるかを説明できるようになる
(3) マクロ経済学で考える4つの形とそのつながりについて理解する
(4) マクロ経済学における長期と短期の違いを理解する
(5) 経済政策の必要性と、財政政策・金融政策の役割についてそれぞれ説明できるようになる

提出課題

原則、毎授業後に
・学習内容に関する確認問題
・授業で学んだことや感想・質問に関する自由記述
の2種類の課題を出題します (respon もしくは 小レポートとして実施する予定です)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

毎回課される課題の得意具合や回収した感想・質問は、授業内で講評したり授業計画の修正の参考にしたりします。また、確認問題に関してはその解答・解説を公開します

評価の基準

・平常点：40% (毎回の課題の提出状況や、その取り組み具合などで評価)
・定期試験：60%

履修にあたっての注意・助言他

・「バツと聞いて分かる」というよりは「じっくり考えてから分かる」ことが多い学問です。そのため、授業内容の理解には「根気」と「努力」が必要になります
・授業の内容上、数式や図表を用いることがあります。それにともなって必要となる数学については適宜、説明を行います
・毎回の授業は、連続ドラマのようにそれまでの授業内容を前提とした「続き物」になっています。そのため、授業内容が途中で分からなくなると、授業自体がつまらなく辛い時間になってしまいます。大学の授業は皆さんにとって初めて聞く内容が大半であり、最初から分からないのは当たり前です。恥ずかしがらずに積極的に質問をし、疑問点は早めに解消していきましょう

教科書	.使用しない。			

プリント資料及び参考文献

ハンドアウトを配布するため、教科書は必要ありません。しかしハンドアウトだけでは不安に感じる方は、下記にあげる参考文献の中から自分にあったものを用意してください

- ・平白良司・稲葉大『マクロ経済学・入門の「一歩前」から応用まで』有斐閣、2015年。
- ・伊藤元重『マクロ経済学 第2版』日本評論社、2012年。
- ・吉川洋『マクロ経済学 第4版(現代経済学入門)』岩波書店、2017年。
- ・中谷敏『入門マクロ経済学 第3版』日本評論社、2007年。

授業計画

第 1 回 マクロ経済学は経済活動をどうとらえるのか? ~マクロ経済循環入門~

第 2 回 マクロ経済指標の見方 (1) 様々なマクロ経済指標
第 3 回 マクロ経済指標の見方 (2) 様々なマクロ経済指標 (つづき)
第 4 回 マクロ経済指標の見方 (3) GDP とは何?
第 5 回 マクロ経済指標の見方 (4) 三面等価の原則
第 6 回 マクロ経済指標の見方 (5) IS パラダクスとマクロ経済
第 7 回 マクロ経済指標の見方 (6) 物価に関する指標
第 8 回 マクロ経済指標の見方 (7) 物価指数に関する様々なトピックス

第 9 回 マクロ経済学における「長期」と「短期」
第 10 回 経済政策の必要性

第 11 回 GDP の大きさはどう決まるのか?【45度線分析入門 (1)】消費について
第 12 回 GDP の大きさはどう決まるのか?【45度線分析入門 (2)】投資について
第 13 回 GDP の大きさはどう決まるのか?【45度線分析入門 (3)】均衡国民所得の決定
第 14 回 財政・金融政策の役割と乗数効果

第 15 回 これまでのまとめ と 確認

授業予定の消化より受講生の理解の方を優先するため、授業計画通りに進まない場合もありますが、あらかじめご了承ください

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

下記を目安に復習を中心にして準備学修に取り組んでください。

- ・授業内で使用したハンドアウトを用いた学修内容の復習する (1.5 時間程度)
- ・毎授業後に課される確認問題に取り組む (1 時間程度)
- ・授業で学んだこと、質問事項などをまとめる (0.5 時間程度)
- ・確認問題の確認を確認する (1 時間程度)

特に、授業等を通して人から教えてもらっただけでは「分かった気」になってしまい、いざという時に学習した事を生かすことができません。内容をしっかりと理解するには「その内容を他の人に説明できるようにする」ことを目指して復習することが大切です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業での学修は、学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力のうち、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の養成を目指したものである。特に、経済学部の科目として「社会に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察できるようにする」「世の中の動きを理解し、現代社会の経済問題に関して解決策を考えるための基礎知識を習得する」ことを目指している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

使用した教材や課題の解答・解説等は適宜、RYUKA Portal で公開していきます。授業の復習などに活用してください

実務経験の有無及び活用

備考

・新型コロナウイルス感染症の流行などの社会状況によってはシラバスに修正が加えられる可能性もあることをあらかじめご了承ください